

公民館70周年事業

奈良岡朋子さん一人舞台「黒い雨」公演



今年、置戸町に公民館が誕生して70年を迎えます。中央公民館では、記念事業第1弾として、7月11日に内田美智子さんをお招きし、講演会を開催しました。今回は、第2弾記念事業として、8月4日に中央公民館講堂で公演された女優の奈良岡朋子さん（劇団民藝代表）の一人舞台「黒い雨—八月六日広島にて、矢須子—」の様子を紹介します。

8月4日、連日続く暑さの中、町内外から180人の入場者が訪れました。舞台の下手から本を片手に颯爽と登場した奈良岡さんは、舞台中央に置かれたソファに腰かけ、本を開くと、気品のある凛とした声で語り始めました。

登場人物は、叔父夫婦と姪の矢須子の3人。昭和20年8月6日の広島での被ばく体験と戦中戦後の日常がつづられた物語に、会場は引き込まれていきます。戦争は、人々の人生と何気ない日常を奪い、失ったものは、二度と帰ってくることはありません。これからも伝えたい平和の尊さと他者を思いやり、「生きること」の素晴らしさを心に刻んだ70分間の一人芝居に、観客は惜しみない拍手を送りました。

出演者とスタッフの昼食は、町内の有志7人の手作り。料理には、地域のかたから提供されたタマネギ、ジャガイモ、キュウリ、ヤマベなど新鮮な地元の食材を使用。夏野菜の揚げだしやヤマベの唐揚げなど12品がテーブルに並び、お店より美味しいと大好評でした。

